

キャラクター名  
中畑 侑弥 (ナカハタ ユウヤ)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ノイマン		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
オプション			年齢	17	性別	男
覚醒	無知	衝動	飢餓	初期侵食率	29	%
出自	疎まれた子	経験	仲間の死	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	11
精神	3	1	3			7	戦闘移動	16
社会	2	0	0			2	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避	1		知覚			意志	3		調達	4	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊と守護の砂		0		0		《シールドクリエイト》《ダブルクリエイト》
0-99	白兵	1r	14			+10
100-159	白兵	1r	16			+10 (+11)
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	
携帯電話	
中畑のドッグタグ	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
複製体	P	N		
大貫忠弘	P 信頼	N 恐怖		
桐生菜月	P 執着	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12    残り財産P: 10

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
戦いの予感	2	2+2	セット	至近	自身	自動	D	
効果: 行動値+[LV*10]、最初のラウンドのみ、1回/シナリオ								
シールドクリエイト	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器作成								
ダブルクリエイト	10	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器二つ作成、ガード値+[LV]								
コンセ:モルフェウス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-[LV]								
サイコメトリー	1	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: <情報:> ダイス+[LV+2]								
砂の刃	1	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[LV+2]、G値-5計算								
クリスタライズ	2	4	メジャー	-	-	対決	100	
効果: 攻撃力+[LV*3]、装甲値無視								
砂の結界	★	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリング、1回/メイン								
八重垣	★	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 装備武器ガード値合計								
ひらめきの盾	2	2	オート	視界	単体	自動	80	
効果: HPダメージ-10、[LV]回/シナリオ								
万能器具	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 日用品を作成								
写真記憶	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 目にしたものを忘れない								
効果:								

コードネーム: 『ラムル』アラビア語で砂、『セト』エジプトの砂の神、保護と恵みの神、そして破壊の神でもある。幼き時間を共に過ごした『友』の影を、いつまでも、いつまでもいつまでも、追いかけている。忘れることの出来ぬ、あの笑顔を抱いて。

ホームから出て暫くして、とある人間の複製体であることを知ったが、何故自分がこの世に生を受けたのか、そんなものには興味がない。今興味のあることは一つ、『彼』を殺したアイツを、殺すことだけだ。ただ、オリジナルがどんな人間で、どんな生活を送っているのかは、少しだけ知りたくもある、ような気もする。自分が苦しく悩んだ時期に、どれだけ楽で幸せな生活をしていたのか。

チルドレンとして保護される以前は、複製体と知らずに引き取った母親変わりの人間と三歳まで共に暮らす。生まれたときより当然のごとく砂を扱っていたので、母親は軽い発狂状態になっていた。肉体的虐待を受け頭部に大きな怪我を負い、保護当時右目の視力が極端に低く、それを庇うように生活していた。また感情の起伏が少なく、肉体的年齢と精神的年齢の乖離があった。

それから同年代のチルドレン・大貫忠弘と交流していく中で感情が少しずつ芽生え始める。視力の低い右側に常に立って自身の目の代わりになってくれた『彼』に対し、信頼を寄せていた。本当の兄弟のように育ち、自分こそ兄であると思っている『彼』に合わせ弟のように振る舞うが、本来は自分こそが兄だと思っていた。当時流行っていた名前の付け合いを行い、『彼』に自身の名前を貰う。『周囲を見渡しその広き視界で、人を助ける』。この名を非常に気に入っている。二年前に訓練課程を修了、『彼』とは別れて、それぞれの任務をいくつかこなしていく。所属は日本支部。日本各地や、場合によっては海外に派遣され、その守る力で仕事をしていた。